

# 安心の設計

介護、医療、子育て、老後の  
ご意見・疑問をお寄せ下  
メールansin@yomiuri.com  
ファックス03・3217・9957

安心して話しやすい環境が整  
忘れてしまうことや、うまく  
できないことが増えて、  
安心して話しやすい環境が整  
ます。

◆本人ミーティングで 話し合われている テーマの例	
自分の体験	何が起り、どう思ったか 嫌だったこと 良かったこと
困難	困りごと 不自由なこと 生きづらさ
自分なりの工夫	困りごとなどへの具体的な対応策 前向きに暮らすヒント
自分の希望	やりたいこと これからの望み
意見要望提案	地域や行政、専門職や家族へ 分かってほしいこと 変えてほしいこと 新たに必要なこと

※長寿社会開発センター作成「本人ミーティング開催ガイドブック」から抜粋

## お互いの励みに◆支援策の参考に

当事者団体「日本認知症本人ワーキンググループ」事務局の鈴木英一さんは、そう話します。

「『認知症になつたら何も分からなくなる』『何もできなくなる』『それは誤解です』。当事者団体「日本認知症本人ワーキンググループ」事務局の鈴木英一さんは、そう話します。

「『認知症になつたら何も分からなくなる』『何もできなくなる』というイメージを持つている人もいるかもしれません、それは誤解です」。

認知症にまつわる支援策は、長年、家族や介護職員ら、ケアに携わる人の負担を減らすことに重点が置かれてきた面があります。それが近年、認知症の本人が意見を発信したり、活躍する場を設けたりと、当事者を支援する動きが盛んになってきています。

認知症になつたら何も分からなくなる』『何もできなくなる』といふイメージを持つている人もいるかもしれません、それは誤解です」。

当事者団体「日本認知症本人ワーキンググループ」事務局の鈴木英一さんは、そう話します。

「『認知症になつたら何も分からなくなる』『何もできなくなる』といふイメージを持つている人もいるかもしれません、それは誤解です」。

## 認知症 いろは

5

## 当事者同士が本音で語る場

ついでいえば、やりたいことや困っていることを話せる人はたくさんいます。自分の気持ちを話せるだけで元気になれることもあります。それから、認知症の本人が意見を発信したり、活躍する場を設けたりと、当事者を支援する動きが盛んになってきています。

取り入れることは重要です。そこで各地に広がりつつあるのが、認知症の人が集まる「ピアサポート」の活動です。自治体や介護事業者、医療機関などが主催しています。

当事者同士だからこそわかることがあります。「社会とのつながりを持ちながら生き生きと暮らしている当事者の姿を見ることで、希望を持った」といった声が上がっています。

テーマは、これからやりたいことや、困りごとへの自分なりの対応策など様々です。自治体職員らが傍聴し、支援策を考える上で、意見を取り入れている地域もあります。家族が「もう本人はほとんど話せない」と思い込んでいても、本人ミーティングに参加すると、家族が驚くほど、自分の気持ちを語り始める人も少なくないそうです。

認知症の当事者が相談員に

なり、診断されたばかりで不安を抱える当事者らの相談に乗る「ピアサポート」の活動も広がってきています。

まだ全国で多く開催さ

れているわけではありません

が、近くで行われている本人

ミーティングやピアサポート

の情報を知りたい場合、地域

包括支援センターや、自治体

の担当課、認知症疾患医療セ

ンターなどに問い合わせてみ

てください。(田中ひろみ)

\*次回は22日に掲載予定で